

明石市新ごみ処理施設整備基本計画（素案）

に対していただいたご意見の概要と市の考え方

- 1 募集期間：2023年（令和5年）1月4日～2023年（令和5年）2月3日
- 2 提出件数：19件（10名）
- 3 意見概要：ご意見の概要と市の考え方は、以下のとおり。

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
1	P33	表 2-8 実施結果の概要一覧	文字が潰れており、読みづらくなっています。次回編集時には改善をお願い致します。	読み取りやすくなるよう変更します。
2	P88	3 破碎選別施設の処理技術 (8) 防爆対策及びリチウム電池混入による火災等に対する安全対策	ここでは破碎処理施設における引火・爆発事例のみが記載されていますが、セットとして市民に対する啓発を強化すべきと考えます。明石市だけでなく、全国的に破碎処理施設だけでなく、収集車における発火事故も発生しています。事故による施設の補修費用が多額となり、ごみの収集以上に大きな負担となりかねません。 また、この手の爆発や発火は、ごみとして収集される前の段階でも発生しうる事象と考えます。 例えば、焼却施設併設の啓発施設では、リサイクルされる素晴らしさを強調する傾向にありますが、ここでの啓発内容に含めることで、危険を察知させる(啓発する)ことを検討してはいかがでしょうか。	いただいたご意見のとおり、カセットボンベやリチウム電池などの危険ごみ混入により、破碎選別施設や収集車の発火事故が発生しているところです。その安全対策として、市民に対する啓発は大変重要と認識しています。 いただいたご意見を参考に市民に対する啓発の強化などを検討してまいります。
3	P97	4 -4 処理方式比較	比較結果として整備方式をストーカ炉と結論づけていますが、全国的に見て広く採用されており、且つ複数のメーカーが参入できる方式である点も考慮し、賛成します。	今後もより良い新ごみ処理施設となるよう取り組んでまいります。
4	P153	4 事業方式の総合評価	比較検討の結果、DBO方式を採用していますが、同様に賛成します。 PFI事業である必要性がありません。 ・民間による資金調達の方が起債よりも金利が高い。	

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
			<ul style="list-style-type: none"> ・ SPC の運営経費が必要となること。 ・ 民間運営の併設施設を整備する必要性がない。 近年の建設コストの高騰や資材納期の延伸から、DB ではなく従来型を選択する事例も増えつつあります。しかし、本施設は限定少数による運営施設であることから、運営者も一体となった設計検討を図ることによる無駄の排除と運営しやすい施設整備を目的とするため、従来型も適切ではないと考えます。	
5	P160	4 余熱利用の考え方と利用可能量 (2) 余熱の利用可能熱量について	余熱利用について、過去には様々な自治体で温水プールや植物園などの施設が併設されてきました。しかしながら、これにかかる施設整備費及び運営費の方が多額に上るため、閉鎖されてきました。従いまして、発電後の余熱に関しては、場内利用とし、必要以上の施設整備をしない方向でお願いしたいと思います。	新ごみ処理施設では、既存施設と同様にごみ焼却により発生した熱をごみ発電に最大限利用します。 この発電した電力のうち、施設内での使用を除く余剰電力について、外部の公共施設等への供給や電気自動車の充電ステーションなど、地産地消に向けた電力供給を検討してまいります。
6		その他	ゴミを燃やすときに生まれる大量の熱で電気を作れるのではないかと考えます。今、石油が入ってこなくなり、電気代も物価も高騰し、コロナで疲弊しているところであり、よろしく願います。	また、発電後に余る低位の余熱は、施設内での温水・暖房利用や災害時に温水として提供するなど、脱炭素や SDGs の取り組みにもつながるよう検討してまいります。
7		その他	毎日、膨大な量のごみを燃やしていると思います。その熱量を利用して発電できないでしょうか。電力会社には利権があって、送電線を独占していると聞きます。うまく交渉して電線網を使わせてもらえないでしょうか（リース代を支払うとか）。実現すれば、ごみを発電に利用でき、SDGs にもピッタリな計画ですし、石油・石炭・原子力に頼らずに済みます。	
8		その他	基本計画を見て、環境に配慮されており、素晴らしいと思い、安心しました。排ガス、CO ₂ 排出を減らすとありましたが、ゴミ処理はさらに放熱もします。これらを利用して、野菜工場ができないで	排出ガスから CO ₂ を抽出・回収し、植物栽培や藻類の培養に利用している先進的事例もありますが、現在、多くの製造メーカーにおいては、抽出・回収し

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
			<p>しょうか。</p> <p>植物が二酸化炭素を吸収し、熱で温室にでき、ガスで発電できます。植物も野菜やキノコ、果物だと、私たちは嬉しいですが、そうではなく、機能性植物、例えばプラスチックを作る藻類、医薬品や化粧品材料になるような、たんぱく質を発現している植物を育てると、エコで販売できていいと思いました。</p> <p>排出規制だけでなく、有効利用した方が排出をゼロにするだけでなく、収入にもなるのではないのでしょうか。</p>	<p>たCO₂の利活用を含め、実証実験等の研究が行われているところです。</p> <p>いただいたご意見の可能性も考慮し、将来的に対応可能な施設となるよう検討してまいります。</p>
9		その他	<p>CO₂排出削減に向けた意味では、ゴミの量を家庭単位で減らすとどれくらい地球環境をよくできるのか、見える化したものが住民に発信できる施設にしてほしいです。</p> <p>長期的に減ることはないゴミをいかにして地球にダメージを大きく与えず、人と環境保全が共存していく社会を作れるかというテーマがあるといいです。</p> <p>リサイクルしたものが、どのように選別されて物は転換されているのかということ、今のリサイクル課題も踏まえたものが、住民に広く周知され考えさせてもらえる設備がいいと思いました。</p>	<p>いただいたご意見も参考に、環境学習・啓発機能の充実が図れるよう検討してまいります。</p> <p>また、新ごみ処理施設の整備をきっかけに、ごみ減量やリサイクルなどについて、市民等に広く興味・関心を持ってもらい、これらが脱炭素やSDGsの取り組みにもつながるよう検討してまいります。</p>
10		その他	<p>食品トレー、卵パック、プリンやゼリーのカップ、いちごなどが入っている透明パック、卵豆腐が入っている透明の器などを、リサイクルできる資源ごみとして出せるようになってほしい。</p> <p>食品トレーや卵パックを回収しているスーパーはありますが、持っていく手間や、そのスーパーの物しか回収致しませんという不自由があります。やはり自治体の日常的な回収で出せるようになってほしいです。</p> <p>きれいな資源ごみを、燃やしてしまうのはもったいないです。そうすることで、</p>	<p>新ごみ処理施設では、燃やせるごみの減量及びリサイクル率の向上に向けて、食品トレー・卵パックなどの容器包装プラスチック及び歯ブラシ・文房具などの製品プラスチックの分別にも対応した施設として計画を進めています。</p> <p>具体的なごみの分別については、いただいたご意見を参考に今後、検討を進めてまいります。</p>

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
			燃やせるゴミの総量を減らすことができますし、家庭で日常的に、子供達も、これは燃えるゴミ、これは資源ゴミ、それぞれのゴミの分別を考えて出すようになれば、環境に対して意識が向上し、良い教育にもなると思います。	
11		その他 (情報共有)	2019年度に概算見積を取得。我々市民には、どのような情報提供があったのでしょうか。 情報の共有は、市民参画のベースです。	新ごみ処理施設の整備に向けた取り組みは、市のホームページで公表しています。 いただいたご意見に関する内容は、第2回技術支援会議(令和元年11月5日)の資料に記載しています。
12		その他 (環境基本計画 P15、ごみ 推移データ)	ごみ排出量(減量)の推移が、非常に緩慢です。 ごみ処理量 2015(100)→2020(95.4)→2030(86.2) 家庭系燃やせるごみ 2015(100)→2020(94.5)→2030(87.6) 年率1%ですか。 抜本的なごみ減量施策を行うべき。啓発、分別、ごみ袋有料化など。議論への提供を願います。	ごみ排出量(減量)の推移(年率1%)は、一般廃棄物処理基本計画において、ごみの減量や再資源化を促進するための方策について検討し、あわせて適正な目標値を設定しているところです。 具体的なごみの減量施策については、次年度以降の環境審議会などの議論を踏まえ、実施に向けた検討を進めてまいります。
13		その他 (事業費金額、運営事業など)	近隣市町、中核市など、比較のデータがあればよい。また、ごみ推移データについても比較してもらいたい。	ごみ処理施設の整備は、それぞれの施設によって建物の広さや設備の仕様のほか、発注方式や競争性の確保、社会情勢など様々な条件が異なるため、単純な比較は困難なところです。 なお、ごみ処理の実績値については、一般廃棄物処理基本計画で公表しています。
14		その他	新ごみ処理施設は、焼却することが大前提となっていますが、生ごみを堆肥にする施設を検討できませんでしょうか。 海外では生ごみの堆肥化は当たり前に行	いただいたご意見の「生ごみを堆肥化する施設」は、基本計画(素案)P61～63に記載する原燃料化処理方式に分類されま

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
			<p>なっていますし、国内でも福岡県大木町などで実績がありますので、実現可能だと思います。</p> <p>温室効果ガスの削減にも繋がりますし、昨今の化学肥料の原料高もあり、自給率向上にもなりますのでぜひ検討いただきたいです。</p>	<p>す。</p> <p>本市に最適な処理方式を検討する過程では、原燃料化処理を含むあらゆる処理方式から検討を行いました（P90～97 参照）。</p> <p>技術的な観点で助言をいただく技術支援会議では、原燃料化処理は、燃料や肥料等の生成物の引取先を継続確保する必要があり、事例も少なく競争性が働きにくい。また、災害廃棄物の受入れなどを考慮すると、可燃ごみの処理が完結する「熱処理方式」が有利であるとの助言をいただきました。</p> <p>その助言を参考に庁内検討委員会で検討した結果、エネルギー回収・省エネルギー、他都市での採用実績、経済性等を考慮し、「ストーカ式焼却方式」としました。</p> <p>なお、家庭から出る生ごみの減量化施策の一つとして、ごみの堆肥化の普及啓発を推進してまいります。</p>
15		その他	<p>ごみ処理量（燃やせる・燃やせない排出量）を 2036 年に 20%削減という目標に達成するために「一般家庭ごみ全戸別収集」を提案致します。</p> <p>（戸別収集の利点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関先にごみを出すので分別に対する意識向上につながりごみの減量、資源回収率が向上し、分別の徹底、排出の抑制につながる。 ・ 高齢者や子育て世代が集積所まで運ぶ負担が軽減できる。 ・ カラス、野良猫対策は各家庭で自主的 	<p>ごみ減量に向けた貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見については、関連部署と情報共有し、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
			<p>に対策を図る。家の前が汚されないように考えるため非常に合理的である。他</p> <p>(その他)</p> <p>ごみ集積所は私の家の前に道路を挟んで3か所あります。地区外から車でごみを排出しに来ても誰だか分かりません。今から40年前は25軒分位でしたが、30年程前から増え始め、4年前は89軒分、去年は113軒分と異常な数になってしまいました。</p> <p>明石市の建築許可にごみ収集所設置義務がされていないのもおかしい。他</p> <p>どうか「高齢者にも優しい明石市」をお願いいたします。</p>	
16		その他	<p>巨額の費用を要する本計画の策定にあたって、審議会等の市民参画手続きや専門家による検討機関をつくらないまま計画を策定したのは何故なのか。</p> <p>巨額で重要な予算執行が必要な事業計画について自治基本条例ならびに市民参画条例にもとづく検討過程を踏襲していないのは何故なのか。</p> <p>明確にしてください。</p>	<p>新ごみ処理施設は、市民参画条例第6条第2項第4号に定める広く市民の利用に供する大規模な施設に該当し、同条例第7条に定める手法により、市民参画手続を実施しています。</p> <p>具体的には、本パブリックコメントや環境審議会での意見等の求めがそれにあたります。</p> <p>また、「専門家による検討機関」については、循環基盤工学・廃棄物処理・衛生工学・建築工学などの専門知識のある外部の方を招き「技術支援会議」という会議体を発足させて、議論を重ねてきました。詳しくは市のホームページ「新ごみ処理施設整備に向けた取り組み」をご覧ください。</p>

パブリックコメント				
NO.	頁	該当箇所	ご意見の概要	市の考え方
17		その他	一般廃棄物処理基本計画の 10 年間で 15%程度のごみ減量目標が妥当であるとした理由の説明、および、前計画の目標が達成されていない原因や問題点がどのように分析され、現計画に反映されているのかを明確にしてください。	一般廃棄物処理基本計画におけるごみ減量目標は、計画を改定する際に、これまでの達成状況や他市の取組状況を踏まえて、ごみの減量や再資源化を促進するための方策について検討し、適正な目標値を設定しているところです。
18		その他	ごみ減量の決め手は「分別に始まり、分別に終わる」と言われていますが、未だに毎週の家庭収集が実質3分別（可燃、不燃、カン・ビン・ペットボトル）に止まっている、いやかつてよりも後退したままになっているのは何故か。このこととリサイクル率が低いままの相関関係はないのか。	現在本市の分別は「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」「資源ごみ（空き缶・空きびん・ペットボトル）」のほか、「粗大ごみ」、「紙類・布類（新聞・雑誌雑がみ・段ボール・紙パック・布類）」の9分別となっています。新ごみ処理施設では、燃やせるごみの減量及びリサイクル率の向上に向けて、容器包装プラスチック及び製品プラスチックの分別にも対応した施設として計画を進めています。
19		その他	ごみ減量目標値を2倍の30に上げて履行した場合には、施設整備費用はどの程度に圧縮できるのか。また目標値を50すなわち「ごみ半減」にした場合は、どうなるのか。明確にして欲しい。	基本計画(素案)のごみ減量目標20%は、施設整備費を抑制するため、可能な限りコンパクトな施設規模となるよう、一般廃棄物処理基本計画の目標値や学識経験者など外部有識者の意見を踏まえて設定しました。 なお、施設整備費については、今後の基本設計段階で国の交付金制度の活用などによる市負担額の軽減も含め精査してまいります。